

3月

# 新着本の紹介



予約の受付は、配架する**3月1日、午後1時**からです。

青字は児童書

ただし、直木賞・芥川賞受賞作品は、発売後、納品・登録次第配架します！（予約は2/1、午後1時から受付ます）

書名	著者名	内容
新章 神様のカルテ	夏川 草介	信州にある「24時間365日対応」の本庄病院に勤務していた内科医の栗原一止は、より良い医師となるため信濃大学医学部に入局する。消化器内科医として勤務する傍ら、大学院生としての研究も進めなければならない日々も、早二年が過ぎた。舞台は、地域医療支援病院から大学病院へ。内科医・栗原一止を待ち受ける新たな試練！
魔眼の匣の殺人	今村 昌弘	その日、“魔眼の匣”を九人が訪れた。人里離れた施設の孤独な主は予言者と恐れられる老女だ。彼女は葉村譲と剣崎比留子をはじめとする来訪者に「あと二日のうちに、この地で四人死ぬ」と告げた。ミステリ界を席卷した『屍人荘の殺人』シリーズ第二弾。
不死鳥少年 アンディ・タケシの東京大空襲	石田 衣良	14歳の少年タケシはハーフである。時は太平洋戦争末期、町工場を継いだ伯父は2度目の召集で戦地に。タケシが仲間らと東の間の憩いを満喫した1945年3月10日未明、東京の下町をB29が襲う。家族らを守るために、タケシの長い夜が始まった。父の国に爆撃され、母の国を命がけて走った少年がいた。いま読まれるべき「新しい戦争小説」の誕生。
スクエア 横浜みなとみらい署暴対係	今野 敏	所有者不明土地で二つの遺体が発見された！不動産詐欺の背後に見え隠れする暴力団の陰を追って“ハマの用心棒”が動き出す！
未だ行ならず 書き下ろし長編時代小説 上	佐伯 泰英	長崎へと辿り着いた坂崎空也は、島巡りで出会った長崎会所の高木麻衣と奉行所の鶴飼寅吉と再会した。そして、長崎奉行松平石見守の命により「大阪中也」という偽名を名乗り武者修行を続けることになる。一方、江戸では薬丸新蔵が野太刀流の道場を開いたのだが……。
未だ行ならず 書き下ろし長編時代小説 下	佐伯 泰英	長崎で武者修行を続ける坂崎空也のもとに、想いを寄せる薩摩の渋谷眉月が訪れる。平穩に武者修行を続ける空也だったが、恨みを抱く東郷示現流酒匂一派の影が迫っていた。同じ頃、薩摩藩の江戸家老から呼び出しを受けた薬丸新蔵は、初めて江戸藩邸に出向くが……。空也と新蔵の二人と酒匂一派の因縁は決着の時を迎え、青春篇はいよいよ完結！

終わった人	内館 牧子	大手銀行の出世コースから子会社に出向、転籍させられ、そのまま定年を迎えた田代壮介。仕事一筋だった彼は途方に暮れた。生き甲斐を求め、居場所を探して、惑い、あがき続ける男に再生の時は訪れるのか？
さざなみのよる	木皿 泉	小国ナスミ、享年43歳。息をひきとった瞬間から、その死は湖に落ちたひと雫の波紋のように、家族や知人へと広がっていき…。命のまばゆいきらめきを描いた感動と祝福の物語。 2019年『本屋大賞』ノミネート作品
ひと	小野寺 史宜	母が急死し、たった1人になった20歳の柏木聖輔。空腹に負けて吸い寄せられた商店街の惣菜屋で、聖輔は買おうとしていた最後に残った50円のコロッケを見知らぬお婆さんに譲った。それが運命を変えるとも知らずに…。 2019年『本屋大賞』ノミネート作品
火のないところに煙は	芦沢 央	「神楽坂を舞台にした怪談」を依頼された作家の「私」は、かつての凄惨な体験を振り返り、事件を小説として発表することで情報を集めようとするが…。作家がある怪異を小説にした時、誰にも予測できない恐怖の連鎖が始まった——戦慄とどんでん返しの波状攻撃が癖になる暗黒ミステリ。 2019年『本屋大賞』ノミネート作品
ベルリンは晴れているか	深緑 野分	1945年7月、4カ国統治下のベルリン。米国の兵員食堂で働くドイツ人少女アウグステは、恩人の男の不審な死を知り、彼の甥に訃報を伝えるため旅立つ。しかし、なぜか陽気な泥棒を道連れにする羽目になり…。歴史ミステリ。 2019年『本屋大賞』ノミネート作品

※NHKテレビテキスト

「きょうの料理」「すてきにハンドメイド」「きょうの健康」も貸し出ししています。